

2022年度（令和4年度）

# 院友子弟等特別選考入学試験要項

◎試験当日は、この「入学試験要項」を必ず持参してください。

文 学 部

神道文化学部

法 学 部

経 済 学 部

人間開発学部※

※選考方法が一部変更となりました。  
(令和3年9月30日変更)

もっと日本を。もっと世界へ。

 國學院大學

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28

総合企画部入学課

☎ 03-5466-0141

www.kokugakuin.ac.jp

新型コロナウイルスの影響によって、やむを得ず、入学試験実施（出願要件・試験日程・試験内容等）について変更する可能性があります。変更が生じた場合は、本学 Web サイトにて随時公表いたしますので、出願にあたっては、必ず本学 Web サイトにて最新情報をご確認ください。また、出願開始後に変更が生じた場合は、当該出願者に対し E メールまたは郵送にて通知いたします。

入試情報に関する変更は、こちら（本学 Web サイト）からご確認ください。



## 目 次

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）	1
2. 募集人員・出願資格等	8
3. 実施スケジュール	10
4. 受験から入学手続きまで	11
5. 選考方法	13
6. 第1次出願書類	22
7. 入学志願票記入例	24
8. 学費等納付金	26
(1) 学費等納付金について	
(2) フレックスコースの学費等納付金について（神道文化学部）	
9. 入学前学習講座	27

### ＜提出書類様式＞

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1次</td> <td style="padding: 2px;">志望理由書</td> <td style="padding: 2px;">【様式1】</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">課題レポート</td> <td style="padding: 2px;">【様式2】</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">活動レポート・ 添付資料目録(※1)</td> <td style="padding: 2px;">【様式3】</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">出願資格確認書</td> <td style="padding: 2px;">【様式4】</td> </tr> </table> <p>※1 文・神道文化・経済学部が提出</p>	1次	志望理由書	【様式1】		課題レポート	【様式2】		活動レポート・ 添付資料目録(※1)	【様式3】		出願資格確認書	【様式4】		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2次</td> <td style="padding: 2px;">エントリーシート(※1)</td> <td style="padding: 2px;">【様式5】</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">レポート・課題レポート(※2)</td> <td style="padding: 2px;">【様式6】</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding: 2px;">活動報告書・添付資料目録(※3)</td> <td style="padding: 2px;">【様式7・8】</td> </tr> </table> <p>※1 法学部・経済学部・人間開発学部が提出。          ※2 法学部・経済学部が提出。          ※3 人間開発学部が提出。</p>	2次	エントリーシート(※1)	【様式5】		レポート・課題レポート(※2)	【様式6】		活動報告書・添付資料目録(※3)	【様式7・8】
1次	志望理由書	【様式1】																					
	課題レポート	【様式2】																					
	活動レポート・ 添付資料目録(※1)	【様式3】																					
	出願資格確認書	【様式4】																					
2次	エントリーシート(※1)	【様式5】																					
	レポート・課題レポート(※2)	【様式6】																					
	活動報告書・添付資料目録(※3)	【様式7・8】																					

### 【出願にあたっての注意事項】

1. 出願資格・受付期間・試験科目等について、事前に熟読してください。
2. 身体機能の障がいや疾病等により、受験・就学に際して配慮を必要とする場合は、出願する30日前までに必ず入学課（03-5466-0141）に連絡してください。

### 【提出書類の確認について】

調査書・証明書等については、記載内容の確認のため、大学から発行元の団体・機関等へ連絡をさせていただく場合があります。

### 【個人情報の取り扱いについて】

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じています。出願書類等に記載された個人情報は、下記の利用目的の範囲内において利用し、本人の同意の無い第三者への提供はいたしません。

なお、取得した個人情報に係る業務を外部委託する場合は、学校法人國學院大學個人情報の保護に関する規程、ならびに國學院大學個人情報の保護に関する規程に従い、適切に管理します。

利用目的	入学試験の実施および実施に伴う各種通知・入学手続きに関する諸連絡、入学予定者への各種案内書類の送付、本学学校法人の國學院大學北海道短期大学部の案内書類送付、出願・入学動向の分析
データ項目	(1) 入学志願票に記入もしくは添付された項目 氏名、住所、電話番号、メールアドレス、性別、生年月日、国籍、出身学校(高等学校等・大学・短期大学(学士入学・編入学のみ))および卒業(見込)年月、志願する入試制度・学科(専攻)、大学入学共通テスト試験成績請求No、日本留学試験受験番号、写真 (2) 調査書、高等学校卒業程度認定試験合格証明書、各種検定・試験の合格証明書・成績(スコア)証明書等に記載されている項目 住所、氏名、生年月日、性別、学習成績の状況、担任による評価、検定・試験の成績および受検年月日
保管期間	10年間

國學院大學における個人情報の利用目的については下記の URL を参照してください。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/privacy/p2>

## 1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

※アドミッション・ポリシー（以下、「AP」）については、本学ホームページでもご確認ください。

### 文学部

#### 【日本文学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・日本の文学・言語・文化を研究したいという意欲を持ち、古典語を含む日本語と日本文化の基礎的な学力を備えている者。
- ・自ら問題を発見し、資料を収集・整理・分析して自分の考えをまとめ、文章で表現できる能力と姿勢を身につける意欲を持つ者。
- ・日本の文学・言語・文化の研究を通して新たな文化創造に参画し、社会に積極的に働きかけ貢献できる者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 国語（古文・漢文を含む）を中心に、日本文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 自らの知識・技能に基づいて問題を発見し、物事を論理的・客観的に考え整理・分析する力と、それを自らの言葉で表現する能力があるか。
- (AP3) 日本の文学・言語・文化の学修・研究に強い意欲を持ち、将来において社会に発信する主体となるために、積極的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「古典A」「古典B」「現代文A」「現代文B」およびそれに相当する教科を履修していることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			志望理由書で本学科への志向性を、レポートで大学の講義を理解する能力を備えているかを、筆記試験で大学の学びに対応しうる学力と能力を有しているかを、面接試験で基礎的な学力と進学への意欲があるかを確かめます。活動レポートは、主体性を持ち他者と協働して学ぶ態度の評価に使用します。
志望理由書			○	
活動レポート			○	
課題図書に基づくレポート		◎		
筆記試験	◎	◎		
面接試験	○		○	

#### 【中国文学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・中国古典の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国近現代文学の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国語の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・中国文化の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。
- ・教職を目指しての専門分野の学修・研究に、強い興味・関心を持つ者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 国語（古文・漢文を含む）を中心に、中国文学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 知識・技能に基づいて、論理的に考え、自主的に判断し、それを正確に表現する能力を持っているか。
- (AP3) 中国の文学や文化に対する志向性を持ち、主体的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに、「国語総合（古文・漢文を含む）」で古文・漢文の基礎をしっかりと身につけ、「世界史A」ま

たは「世界史B」では、特に中国の歴史・文化とわが国との関係について、十分な知識を身につけていることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			中国の文学や文化に強い興味・関心を持ち、本学科での学修に主体的に関わろうとする意欲のある院友（本学卒業生等）の子弟等を受け入れます。
志望理由書		○	◎	
活動レポート	○	○	○	
課題図書に基づくレポート	○	◎		
授業レポート	○	◎		
面接試験	○	○	◎	

### 【外国語文化学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・英語および選択必修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語のうち一言語）を使えるようになりたいという意欲をもつ者。
- ・英語、ドイツ語、フランス語、中国語を話す地域を中心に、世界各地の文化や習慣を知り、知識の幅を広げたいという意欲がある者。
- ・日本と世界各地のさまざまな言語・文化を照らし合わせながら、グローバル社会における日本文化の発信にかかわろうとする意欲がある者。

◎入学者選考の観点

（AP1）外国語、国語を中心に、外国語文化学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。

（AP2）自分の知識・技能を適切に組み合わせ、論理的に考え、答えを導き出し、表現する能力をもっているか。

（AP3）自発的に学び、多様な価値観をもつ人々と積極的に協力する姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「コミュニケーション英語I、II、III」「英語表現I、II」「国語総合（現代文）」を身につけ、さらに「世界史B」「日本史B」「地理B」から一つ以上の教科を学んでおくことが望まれます。

以上に加えて、実用英語技能検定（英検）2級以上（CSE2.0：1,980以上）、TOEIC®L & R 500点以上を獲得できる英語能力を持つことが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			院友子弟等で本学科に対する強い志向性があり、外国語・外国文化を学ぶ上で必要な基礎学力をもつ者を受け入れます。
志望理由書		◎	○	
活動レポート		○	◎	
課題図書に基づくレポート	○	◎		
小論文試験（英語）	◎	○		
小論文試験（日本語）	○	◎		
面接試験	○	○	◎	

### 【史学科】

◎求める人材、期待される入学者像

- ・日本や世界の歴史に関心を持ち、さらに専門的な知識を学んで理解を深めたい者。
- ・歴史資料の調査や研究方法を学び、歴史研究の発信や文化財の保護・活用にかかわりたいという意欲がある者。
- ・歴史上の諸問題に関心を持ち、さまざまな価値観を持つ人々と協力しながら、新しい社会を創造していこうとする意志を持つ者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 地理歴史、国語、英語を中心に、史学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を修得しているか。
- (AP2) 物事を論理的・客観的に考える力があり、それらを自分の言葉で発信する能力があるか。
- (AP3) 日本史学・外国史学・考古学・地域文化と景観（歴史地理）分野の学修・研究に強い関心を持ち、かつ主体的に学ぶ姿勢を備えているか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「日本史B」「世界史B」「地理B」から一つ以上を学んでおくことが望まれます。さらに、「国語総合（古文・漢文を含む）」「古典B」「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「英語表現Ⅰ、Ⅱ」およびそれに相当する教科について、基礎学力を身につけておくことが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			建学の精神を理解し、本学科での修学に意欲的な院友子弟等を受け入れます。
志望理由書		○	◎	
活動レポート			◎	
課題図書に基づくレポート	○	◎		
論述試験	◎	○		
面接試験			◎	

**【哲学科】**

◎求める人材、期待される入学者像

- ・東洋・西洋の哲学思想に対する学修を通して、社会に貢献できる知識と能力を有する者。
- ・哲学・倫理学および美学・芸術学の学門分野に対する強い志向性を持ち、物事の本質を見極めたいという知的探究心に基づき、論理的思考を通して洞察を深めることができる者。
- ・文献を読解し、渉猟することによって、あるいは他者との対話によって様々な知に触れ、自らの考えを吟味検証することができる者。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 現代文、英語を中心に、哲学科で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を習得しているか。
- (AP2) 自分の知識・技能に基づいて、論理的に考え、自ら判断し、それを表現する能力を持っているか。
- (AP3) 哲学（哲学・倫理学や美学・芸術学分野）に対する志向性を持ち、主体的に学ぶ姿勢があるか。

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学までに「国語総合（現代文）」「コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」「英語表現Ⅰ、Ⅱ」を身につけ、さらに「倫理」「現代社会」「政治経済」「世界史B」「日本史B」「美術Ⅰ」「音楽Ⅰ」「地理A」「地理B」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学A」およびそれに相当する教科を一つ以上履修していることが望まれます。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			哲学・倫理学および美学・芸術学の学門分野に興味・関心を持ち、学ぶ意欲を持つ全国の院友（本学卒業生等）子弟等を受け入れます。
志望理由書		○	◎	
活動レポート		○	○	
課題図書に基づくレポート	○	◎		
課題図書に基づく小論文試験	◎	○		
面接試験		○	◎	



## 神道文化学部

### 【神道文化学科】

#### ◎求める人材、期待される入学者像

國學院大學神道文化学部は、神道を中心とする日本文化への高い関心と、国内外の宗教文化を広く学ぼうとする意欲とを持ち、宗教・文化の継承者として、人々の共存や社会の発展に寄与しようとする人材を受け入れます。

具体的には、次のような意欲・意志を持って、学びの成果を社会に活かそうとしている人材を求めています。

- (1) 神道の歴史・思想を学ぶ意欲を持つ者
- (2) 神道の社会的実践について学ぶ意欲を持つ者
- (3) 日本の伝統文化を深く学ぶ意欲を持つ者
- (4) 世界の宗教文化を広く学ぶ意欲を持つ者
- (5) 神社や神道系宗教団体の後継者を志す者

#### ◎入学者選考の観点

人材受け入れのため、次の観点から受験生を選考します。

- (AP1) 神道を中心とする日本文化や国内外の宗教文化（以下「神道文化・宗教文化」）に関わる授業を履修するために必要となる高等学校卒業相当の知識と文章表現のための技能を身につけているか。〈知識・技能〉
- (AP2) 他者の考えを的確に理解し、自らの考えを理論的かつ簡潔にまとめ、ことばで正確に表現できる能力を有しているか。〈思考力・判断力・表現力〉
- (AP3) 神道文化・宗教文化を幅広く学ぼうとする意欲を持っているか。また、神道文化・宗教文化の学びの成果を活かして、社会への貢献を目指す意志を持っているか。〈主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〉

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

#### ◎入学までに身に付けるべき教科・科目

神道文化学部に入学者の学生には、入学後の教育内容との関係上、「国語」「地理歴史」「公民」「外国語（英語）」の学習を求めます。

選考方法		AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
1次選考	調査書	◎	○	○	神道文化学部での学修に必要な総合的な学力を持つ受験生を選考します。 面接試験・志望理由書等では、主に神道文化・宗教文化を学ぶ態度を問います。 課題図書に基づくレポートでは、主に知識や文章表現のための技能を問います。 授業レポートでは、主に思考力・表現力を問います。
	志望理由書		○	◎	
	活動レポート		○	◎	
	課題図書に基づくレポート	◎	○		
2次選考	授業レポート	○	◎		
	面接試験		○	◎	

## 法学部

### 【法律学科（法律専攻・政治専攻）】

法学部は、法律学・政治学に関する知識・理論を理解し、これらを活用して価値観の多様化する現代社会に主体的に参画し、社会の様々な分野で活躍できる人間を育成します。このため本学部は、本学部で法律学・政治学の研鑽に努めることに強い意欲を有し、本学部の教育課程を通じて培った専門的知識や能力を活かして、社会に主体的に参画したいと考える学生を受け入れます。

#### ◎求める人材、期待される入学者像

法律専攻では、とくに次のような人材を求めています。

- ・法や政治に関心を有し、社会の様々な分野で活躍したいという意欲がある者
- 政治専攻では、とくに次のような人材を求めています。

- ・政治に関心を有し、将来政治に関する職業に就くことを目指す者、または、「よき市民」として政治に積極的に関わる意欲を持つ者

◎入学者選考の観点

- (AP1) 本学部で学ぶ分野に関連する教科・科目について、高等学校卒業程度の基礎学力を備える者。
  - (AP2) 社会的な事象に対して問題意識を持ち、情報を収集・整理・分析し、論理的に考え、自分の考えを表現するための基礎的な力を持つ者
  - (AP3) 教科外の活動に取り組み、その中でコミュニケーション能力などを培ってきた者
- ※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

入学後の教育内容との関係で、本学部の入学者には、入学までに、「国語」「外国語」「地理歴史」「公民」、基礎的な「数学」、基礎的な「理科」の学習を求めます。

(別表)

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1次選考（志望理由書およびレポートに基づく書類選考）、第2次選考（自己アピールおよび面接試験）の2段階で実施（第1次選考合格者は第2次出願に際しエントリーシートおよびレポート（ALT型）の提出を要する）</li> <li>・法律専攻・政治専攻のみ募集</li> </ul>
志望理由書		○	○	
課題図書に基づくレポート		○		
エントリーシート		○	○	
レポート（ALT型）		○		
自己アピール		○	○	
面接試験		○	○	

## 経済学部

◎求める人材、期待される入学者像

経済学部は、経済と経営に関する教育を主軸に、主体的に人生を切り拓き、自ら選んだ分野で社会に貢献できる人材を育成します。このことを踏まえて本学部では、次の能力・資質・態度に優れた者を受け入れます。

◎入学者選考の観点

- (AP1) 「英語」「国語」「数学」「地理歴史」「公民」を中心に、経済学部で学ぶ内容に対応する科目について、高等学校卒業程度の知識・技能を備える者。
- (AP2) 各自の問題関心に基づき、情報を収集・分析し、論理的に考え、自らの主張について根拠を示しながら表現できる能力を持つ者。
- (AP3) 他者と積極的に交流し、新しい知識や経験に対して主体的に学修する強い意欲を持つ者。

◎入学までに身につけるべき教科・科目

「外国語」「政治・経済」「地理」「日本史」「世界史」「数学」

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	◎			本学部・学科のディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）を理解し、本学部・学科での学修後の自らの社会人像を明確に持っている院友子弟等を受け入れます。
志望理由書		○	○	
活動レポート			○	
課題図書に基づくレポート	◎			
エントリーシート			○	
課題レポート	○	◎		
面接試験		○	◎	

- (AP1) 知識・技能
- (AP2) 思考力・判断力・表現力
- (AP3) 主体性・意欲・志向性

### 【経済学科】

経済学科は、日本と世界の経済に関心と学修意欲を持ち、将来、企業や公務員を含むさまざまな分野で個性豊かに活躍することを目標とする、以下のような人材を求めています。

- ・経済理論を真摯に学び、仮説を立て、データを駆使して経済問題を分析したい者。
- ・数学的思考力を経済学の学修に生かし、向上させたい者。
- ・歴史的なアプローチにより、現代の経済問題を把握し、また分析したい者。
- ・現地調査の能力を高めて、地域経済の実態を分析し、より良いあり方を提示したい者。
- ・日本経済の発展要因と課題を理解し、将来に向けた政策を考察したい者。
- ・グローバルな視点で日本や地域の経済を意識しながら、世界経済の現状と課題を考察したい者。

### 【経営学科】

経営学科は、企業の経営・会計に関心と学修意欲を持ち、市場・組織・戦略に関する学習・研究を通じて、以下のような能力を磨き、将来社会で活躍できる人材を求めています。

- ・実践力と経営スキルを磨いて、企業などの組織の中で、ビジネスリーダーとして活躍したい者。
- ・創造力と課題解決力を磨いて、新たなビジネスに挑戦する企業経営者、起業家、事業承継者などとして活躍したい者。
- ・分析力と論理的思考力を磨いて、会計士、税理士、コンサルタントなどとして、あるいは金融にかかわる業務で活躍したい者。

## 人間開発学部

人間開発学部では、自らの資質・能力の向上と人間力育成を求めるとともに、教育者・指導者に強い志向性を有することが求められます。そのための基礎学力を持ち、自ら学ぼうとする学習意欲を保持し、十分なコミュニケーション力を有してそれをより高めようとする学生を受け入れます。

心身の発達に関する教養を総合的に身につけていくため、幅広い分野に関心を持って学んできており、さらに、今後の学生生活・卒業後の進路について展望を持っている学生を受け入れます。

◎求める人材、期待される入学者像

### 【初等教育学科】

初等教育学科では、日本の教育への関心と理解があり、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識や技能の修得を目指して、「教育の専門家」を志す意欲の高い学生を受け入れます。

### 【健康体育学科】

健康体育学科では、身体運動や身体諸機能への関心と理解があり、健康の維持増進のあり方と多様なスポーツに関する専門的な知識や技能の修得を目指して、様々なライフステージでの健康・体育分野への寄与を志す意欲の高い学生を受け入れます。

### 【子ども支援学科】

子ども支援学科では、日本の幼児教育・保育への関心と理解があり、幼児教育・保育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識や技能の修得を目指して、「幼児教育・保育の専門家」を志す意欲の高い学生を受け入れます。



◎入学者選考の観点

(AP 1) 知識・技能

(AP 2) 思考力・判断力・表現力

(AP 3) 主体性・意欲・志向性

※具体的な入試制度と観点との関連は別表の通りです。

選考方法	AP1	AP2	AP3	本入試制度のねらい
調査書	○			「人間開発」に強い関心を持ち、本学部・学科への志向性が高い者を求めています。全国の院友（本学卒業生等）子弟等からの受験生に対して、レポート提出を課し、小論文試験、面接試験、実技試験（子ども支援学科のみ）を行います。
志望理由書			◎	
課題図書に基づくレポート	◎	◎	○	
エントリーシート		○	○	
活動報告書・添付資料	○		○	
小論文試験	◎	◎	○	
面接試験		○	◎	
実技試験（子ども支援学科のみ）	○	◎	◎	

◎入学までに身につけるべき教科・科目

教師や指導者になるためには、幅広い分野に関心を持って学ぶ姿勢が必要です。そのための基本的な能力は言語力であり、「国語」の修得が必須となります。

日常生活の中において学習する習慣をつけていることが大切であり、本学部で学修する上で、高校での修学以外に、次にあげるいずれかの能力検定試験相当の学力をもつことが望ましい。

- ・ 日本漢字能力検定：準2級以上
- ・ 日本語検定：3級以上
- ・ 実用英語技能検定：CSE2.0：1,700以上
- ・ 歴史能力検定（世界史または日本史）：3級以上
- ・ 実用数学技能検定：準2級以上
- ・ 理検STEP：2級以上など、高校中級以上のレベル

## 2. 募集人員・出願資格等

### (1) 募集人員

学 部	学 科	コース・専攻	募集人員
文学部	日本文学科		5名
	中国文学科		2名
	外国語文化学科		3名
	史学科		2名
	哲学科		1名
神道文化学部	神道文化学科	フレックスA（夜間主）※	1名
		フレックスB（昼間主）※	1名
法学部	法律学科	法律専攻	3名
		政治専攻	1名
経済学部	経済学科		6名
	経営学科		6名
人間開発学部	初等教育学科		3名
	健康体育学科		3名
	子ども支援学科		3名

※神道文化学部のフレックスコースの選択については、P.9を熟読してください。

募集人員は変更になる場合があります。

出願状況および試験結果等により、合格者が募集人員を下回る場合があります。

### (2) 趣 旨

この特別選考入学試験制度では、國學院大學への入学を強く希望し、勉学・研究に高い意欲を持つ、全国の院友子弟等を迎え入れることを目的とする。

### (3) 出願資格

以下の①～⑧のいずれかに該当する者。

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む）又は中等教育学校を卒業した者、及び令和4年3月卒業見込みの者。
- ② 高等専門学校3年次を修了した者、及び令和4年3月修了見込みの者。
- ③ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣が指定した者。
- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の課程を修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑤ 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、またその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、及び令和4年3月31日までに修了見込みの者。
- ⑥ 文部科学大臣が指定した者。
- ⑦ 高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定試験に合格した者を含む）、及び令和4年3月31日までに合格見込みの者で令和4年3月31日までに18歳に達する者。
- ⑧ 本学において、個別の入学審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和4年3月31日までに18歳に達する者。

(4) 応募資格

- [1] 國學院大學院友会の会員 [本学 (大学院・専攻科・別科・幼児教育専門学校等を含む) の卒業・修了者、または本学・法人・姉妹法人の現職専任教職員など] の二親等以内の親族 (配偶者・姻族含む) であること。なお、出願資格の確認は提出書類に基づいて大学が行う。
  - [2] 本学への入学を第1希望 (単願) とする者。
- ※出願資格等で不明な点がある場合は、必ず入学課 (03-5466-0141) までお問い合わせください。

(5) 併願について

本試験制度内における複数学科・専攻への出願は可能ですが、出願書類は志望学科・専攻それぞれに作成し、提出する必要があります (コピーの提出は不可)。但し、第1次選考 (書類選考) の結果、複数学科・専攻に合格した場合は、**第2次選考への出願は1学科・専攻のみ**となります。なお、第2次選考において、複数学科・専攻へ出願した場合には、全ての第2次出願が無効となりますのでご注意ください。(試験日の異なる試験制度との併願は可能です。)

(6) 入学検定料 (第2次選考料)

第2次出願時に以下の入学検定料 (第2次選考料) を納入。**第1次出願時は納入不要**です。

**35,000円**

※一度納入された入学検定料については、いかなる理由があっても返還しませんので、ご注意ください。

(7) フレックス開講制 (神道文化学部)

フレックス (昼夜) 開講制は、コースによりクラス指定される科目を除き、授業時間帯やキャンパスを自由に選ぶことができます。

コースは出願時に選択します。選考時には、両方のコースを選考の対象として「どちらも希望する」ことができます。また、どちらかのコースのみに限定して志願することも可能です。なお、「どちらも希望する」を選択した場合の最終合格は、「フレックスA (夜間主) コース」もしくは「フレックスB (昼間主) コース」のいずれか1コースを大学側が任意に指定します。

合否の発表は出願時の登録に基づいて行いますので、**選択したコースを出願後に変更することは一切認められません**。また、入学後のコース変更も認められません。なお、コースが未選択の場合は、「1. どちらも希望する」を選択したものとみなします。

1. 「どちらも希望する」
2. 「フレックスA (夜間主) コース」のみ志願する
3. 「フレックスB (昼間主) コース」のみ志願する

【授業時間帯】

本学の授業は、以下の時間帯で開講されます。

	渋谷 キャンパス	月	火	水	木	金	土	横浜たまプラーザ キャンパス
1時限	8:50~10:20							9:00~10:30
2時限	10:30~12:00							10:45~12:15
3時限	12:50~14:20							13:05~14:35
4時限	14:30~16:00							14:50~16:20
5時限	16:10~17:40							16:35~18:05
6時限	17:50~19:20							18:15~19:45
7時限	19:30~21:00							

昼開講時間帯  
 共通開講時間帯  
 夜開講時間帯

※1 渋谷キャンパスは、昼開講時間帯：月～金の1～4限、共通開講時間帯：月～金の5限・土の1・2限  
夜開講時間帯：月～金の6・7限、土の3～7限となります。

※2 授業時間帯については、次年度以降変更することがあります。

【奨学金制度について】

「フレックスA (夜間主) コース」の入学者が、夜開講時間帯及び共通開講時間帯だけで受講する場合に対象となる奨学金制度があります。詳細はP.26を参照してください。

### 3. 実施スケジュール

<p><b>第1次出願</b></p> <p>令和3年9月1日(水)～9月8日(水) (消印有効)</p>	<p>第1次出願に必要な書類の提出。 ※入学検定料の納入は不要です。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 入学志願票</li> <li>② 各種証明書(高等学校調査書等) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 関係を証明する書類(戸籍抄本等)</li> <li>② 出願資格を証明する書類(調査書等)</li> </ul> </li> <li>③ 【様式1】志望理由書</li> <li>④ 【様式2】課題図書に基づくレポート</li> <li>⑤ 【様式3】活動レポート・添付資料目録</li> <li>⑥ 【様式4】出願資格確認書</li> </ul> </div> <p>※詳細はP.22にてご確認ください。</p>
<p><b>第1次選考(書類選考)</b></p> <p>【合格発表】 令和3年9月24日(金)</p>	<p>出願者全員に対し、本人宛に受験番号通知書を送付します。 なお、第1次選考合格者には『第2次出願要項』を公開します。</p>
<p><b>第2次出願</b></p> <p>令和3年10月12日(火)～10月15日(金) (消印有効)</p>	<p>第2次出願に必要な書類の提出。 第1次選考合格者に公開する『第2次出願要項』に従って入学検定料(35,000円)を納入し、必要書類を大学へ提出してください。</p>
<p><b>第2次選考(第1次選考合格者のみ)</b></p>	
<p>【試験日】 令和3年11月14日(日)</p> <p>【集合時刻(厳守)・開始時刻】          文学部・神道文化学部・経済学部：集合9:30 開始10:00～          法学部：集合10:00 開始10:30～          人間開発学部：集合9:00 開始9:30～          ※集合時刻・開始時刻については変更となる場合があります。第1次選考合格者に公開する『<u>第2次出願要項</u>』でご確認ください。</p>	
<p><b>最終合格発表</b></p>	
<p>令和3年11月24日(水)</p>	
<p><b>入学手続</b></p>	
<p>令和3年11月24日(水)～12月1日(水) (消印有効)</p>	

## 4. 受験から入学手続まで

### (1) 受験に関する諸注意

①開門時刻	<p>集合時刻30分前～</p> <p>※ <u>試験教室には試験開始30分前までに入室</u>してください。入場後は、試験が終了するまで場外に出ることはできません。</p>
②受験番号 通知書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出願された方全員に受験番号通知書を発送します。試験3日前になっても受験番号通知書が届かない場合や、記載内容に誤りのある場合、また紛失や破損をしてしまった場合には、入学課（03-5466-0141）までお問い合わせください。</li> <li>・ 電算処理の関係上、受験番号通知書・合格通知等に表記できるのは、JIS第1水準及びJIS第2水準までの漢字です。表記できない漢字については、字体の異なる同字で置き換えられるか、カタカナで表記されますのでご了承ください。</li> <li>・ 試験当日は必ず<u>受験番号通知書を持参</u>し、案内掲示板にて自分の受験番号を確認のうえ、該当の試験教室に入室してください。</li> <li>・ 受験番号はUCAROによる合否通知に必要となりますので大切に保管してください。</li> </ul>
③遅刻	<p><u>遅刻は一切認めません</u>。指定された集合時間に間に合わなかった場合、試験を受けることができません。なお、事故などによって交通機関に遅延が生じた場合でも、試験は原則として定刻通り実施します。</p>
④試験時間 中の注意 事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>時計は必ず持参してください</u>。ただし、辞書・電卓・計算・通信端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは使用できません。また、試験時間中は携帯電話など電子機器類の電源を必ず切ってください。</li> <li>・ 筆記具はHBのもの、消しゴムはプラスチック製を使用してください。下敷き・定規・コンパスなどは使用できません。</li> <li>・ 受験者は試験時間中に以下の物を使用することができます。（ただし、不正行為防止のため、必要に応じて試験監督者が確認する、または使用を認めないことがあります） 「座布団」・「ひざ掛け」・「コート」・「マスク」・「ティッシュペーパー」・「ハンカチ」・「ハンドタオル」・「目薬・点鼻薬」</li> <li>・ 英語や地図、和歌や格言等が印字されている服の着用や所持品の使用はできません。</li> <li>・ 試験教室からの入退室は、試験監督の指示に従ってください。不正行為をした者・試験監督の注意や指示に従わない者には退室を命じ、以降の受験は一切認めません。</li> </ul>
⑤感染症に 関する 注意事項	<p>試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症（インフルエンザ・麻疹・風疹等）に罹患し治癒していない者は、他の受験者や監督者等への感染の恐れがありますので、受験をご遠慮願います。</p> <p>また、試験当日に発症の疑いがあると大学が判断した場合には、受験をご遠慮願いますので、体調管理については十分注意してください。</p> <p>ただし、症状により学校医その他の医師において伝染の恐れがないと認められた際には、この限りではありません。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、原則として再試験などの措置や入学検定料の返還は行いません。</p>



⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学部・神道文化学部・人間開発学部の面接試験は午後からとなりますので、<u>昼食を持参</u>してください。</li> <li>・上履きを持参する必要はありません。</li> <li>・試験教室の下見はできません。</li> <li>・試験会場へは公共の交通機関をご利用ください。自動車や自転車、バイク等での試験場構内への乗り入れはできません。</li> <li>・大規模災害等、不測の事態により、所定の日程通りに入学試験や合格発表等を実施することが困難であると本学が判断した場合、延期・再試験等の対応措置を取らざるを得ないことがあります。これらの対応措置を講ずる場合は、本学ホームページ（<a href="http://www.kokugakuin.ac.jp/admission">www.kokugakuin.ac.jp/admission</a>）に掲載しますので、確認してください。</li> </ul>
------	---

## (2) 評価方法について

出願書類ならびに各学科が指定する選考方法を用いて、アドミッション・ポリシーに基づき、学力を構成する特に重要な以下の三つの要素を多面的・総合的に評価する。

- ① 基礎的・基本的な知識・技能
- ② 知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力
- ③ 主体性を持ち、多様な人々と協働しつつ学習する態度

## (3) 合格発表について

第1次合格発表・最終合格発表とも、受験ポータルサイト「UCARO」にて合否通知を行います。確認する際に、受験番号と生年月日が必要となります。発表日の12:00より、下記のアドレスにアクセスしてください。電話による合否の問い合わせには一切応じません。

<合格発表専用 UCARO ホームページアドレスと QR コード>

<https://www.ucaro.net/gouhi/304012A>



### 【第1次選考合格発表時】

第1次選考合格者には、第1次合格者発表画面にて『第2次出願要項』を公開します（郵送・大学窓口での交付はしません）。「誤操作」「見間違い」などを理由とした、第2次出願期間の延期は一切認めません。第2次出願に必要な書類等は『第2次出願要項』をご確認ください。

### 【最終合格発表時】

最終合格者に対しては、UCARO上の合格発表画面にて、入学手続に関する案内を行います。入学手続は、Web入学手続システムを通して行うものとし、大学から入学手続書類・合格通知書等の送付はいたしません。UCARO上の画面の指示に従って手続を行ってください。

なお、「誤操作」「見間違い」等を理由とした入学手続締め切り日を過ぎての入学手続は一切認めません。

## 5. 選考方法

### (1) 第1次選考 (書類選考)

#### [全学部共通]

#### ①志望理由書【様式1】(1,000字程度)

國學院大學を志望する理由について、何のために何を学びたいのかなど目的意識を明確にして簡潔にまとめること。

#### ②課題図書に基づくレポート【様式2】

課題図書に基づき、下記内容でレポートを作成する。

#### 令和4年度 院友子弟等特別選考 第1次選考レポート課題

岡潔著『春宵十話』(光文社文庫、2006年)

(1) 本書の「春宵十話」の前半5話(「人の情緒と教育」、「情緒が頭をつくる」、「数学の思い出」、「数学への踏み切り」、「フランス留学と親友」)を1,000字以内で要約しなさい。

(2) 本書の「日本の情緒」を1,000字以内で要約しなさい。

#### 「選考のポイント」

課題図書をよく読んで、内容を理解し、指示通りに要領よくまとめられているかを評価します。抜き出した部分を単につなげるのではなく、著者の主張している要点を押さえて構成の整った文章にまとめることが求められます。

#### ③各種証明書(P.22②参照)

#### ④出願資格確認書【様式4】

#### [文・神道文化・経済学部のみ]

#### ①活動レポート・添付資料目録【様式3】(800字以内)

学内外問わず、過去3年間程度で主体的に取り組んだ活動を1つ選び、800字以内で記入すること。活動が団体によるものである場合は、本人の役割を明確にすること(P.23参照)。

第1次選考合格者に対し、学科ごとに第2次選考を実施します。

### 文 学 部

### (2) 第2次選考

#### [日本文学科]

#### ① 筆記試験(古文を読んだの論述、全体で1,000字程度、80分)

以下の3種の古語辞典のうち、紙に印刷された辞書を1冊のみ当日持ち込み可とします(但し、書名に「全訳」とあるものは不可)。電子辞書は不可。

『旺文社 古語辞典』(旺文社)、『古語林』(大修館書店)、『新明解 古語辞典』(三省堂)

#### ② 面接試験(約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識・修学意欲などについての面接を行う。(国語の基礎知識を含む。)

### 文学部 日本文学科 「選考のポイント」

#### ①筆記試験

知識を問う試験ではなく、これから日本文学科で学んでいくために必要な、総合的な知的能力があるかどうかを見るための論述試験です。文章を読んで類推し想像する力と、自然な日本語の表現能力を重視して評価します。

#### ②面接試験

- ・第1次選考に提出された志望理由書・活動レポートの内容に基づいて、日本文学科での「学び」に対するあなたの意欲の強さを確かめます。日本語学・日本文学についての関心の高さや、高等学校卒業までに身につけているはずの国語の常識についても確認します。
- ・面接では、あなたの「学び」に対する意欲を確認すると同時に、あなたが本当に日本文学科に合っているかという適性も確認します。適性というのは、何よりも読書が好きか、本当に文学が好きか、といったことです。
- ・面接では、その場で考えて答える自然な対話を高く評価します。また、無理に自分をアピールする必要はありません。ぜひ自然体で面接に臨んでください。

### [中国文学科]

#### ① 授業の受講とレポート作成 (120分)

授業 (50分) を受け、授業内容に関するレポート (1,000字程度、70分) を作成する。

#### ② 面接試験 (約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

### 文学部 中国文学科 「選考のポイント」

授業の受講とレポート作成では、授業内容の要点を把握してまとめられているか、そこからさらに自分の考えを展開できているかが評価のポイントになります。要約や意見を、正しく論理的に表現する練習をしましょう。

面接では、中国文学科への理解や志向性・意欲がどの程度か確認します。志望理由や現時点・入学後の学びについて説明できるとともに、質問に対して自分の言葉でしっかり答えられるかが求められます。

### [外国語文化学科]

#### ① 小論文試験 (英語30～50語程度、日本語400字程度、90分)

英語・日本語の運用能力、論理的思考力を問う。

#### ② 面接試験 (約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う (英語による質疑応答を含む)。

### 文学部 外国語文化学科 「選考のポイント」

小論文では、英語の読解力、論理的な思考力、英語・日本語の運用能力が問われます。英語の課題文を読んで、(1) 自分の意見とその理由を30～50語程度の英語で簡潔に述べた後、(2) 課題文についての自分の考えを400字程度の日本語で改めて詳しく記述します。英語での意見は、課題文の内容がきちんと理解できているか、意味の通る自然な英文で書かれているかが重要です。日本語で述べる自分の考えは、問題の所在を把握したうえで、論理的にわかりやすく表現できているかどうか、正しい日本語で記述できているかどうか採点のポイントになります。

面接試験には英語による質疑応答が含まれています。自己紹介や入学後の計画、アピールしたいポイントなどを整理し、それらを英語でもはっきり言えるよう、よく練習しておきましょう。ただし、準備してきた内容にばかり気をとられて質問をとり違えたりしないよう、落ち着いて臨むことも重要です。

### [史学科]

#### ① 論述試験 (全体で1,000字程度の論述、90分)

英文・漢文・古文の文章の中から1つを選び、与えられた課題について論述する。文章の内容を理解するとともに、その理解をもとに、自身の見解を論理的に述べることが求められる。

#### ② 面接試験 (約20分)

史学科への志望動機、入学後の学生生活の抱負などを問います。史学科で何を、どのように学びたいかを明確に述べるようにしてください。

### 文学部 史学科 「選考のポイント」

#### ① 論述試験

出題された英文・漢文・古文をしっかりと読みこなし、内容を要約し(300～400字)、そのうえで、その内容について、自分の見解や意見を500～600字程度で論述します。出題文の内容が理解できなければ、自分の見解を書くことができませんので、英語・古文・漢文の読解力をつけておくことが必須です。さらに、要約する力、見解を明快に書く力、日本語表現力を磨く訓練も必要です。

#### ② 面接試験

史学科への志望動機、入学後の学生生活の抱負などを問います。史学科で何を、どのように学びたいかを明確に述べるようにしてください。

### [哲学科]

#### ① 課題図書に基づく小論文試験 (1,000字程度、90分)

あらかじめ次の課題図書2冊のうち1冊を選択して読んでいることを前提とした試験を行う。課題図書は、試験当日2冊とも持ち込み可とし、解答に使用する図書は問題を見た後で決定してよい(なお、図書に書き込みをすること、頁を折り曲げることは可とするが、別紙を持ち込むこと、付箋を貼ることは認められない)。

#### 課題図書

- [1] トゥーゲントハットほか『ぼくたちの倫理学教室』(平凡社新書)
- [2] 伊藤亜紗『ヴァレリー 芸術と身体の哲学』(講談社学術文庫)

#### ② 面接試験 (約20分)

大学での学問・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

### 文学部 哲学科 「選考のポイント」

「小論文試験」：あらかじめ読むよう示された課題図書の中から扱われている問題について、1つ論述問題が課され、指定された論題について、1,000字程度で述べるものです。当然ながら、問いは課題図書の内容をふまえたものとなりますが、小論文は問いの正解のようなものを課題図書の中から探す作業ではありません。

選考のポイントは以下の通りです。

- (1) 書籍や作品について、論点を絞ってしっかりとまとめられているか
- (2) 自分なりの意見の形成ができているか
- (3) 正しい日本語で、理論的に書けているか

たとえば、過去に以下のような課題が出ています。

過去の例) プラトン著・藤沢令夫訳『メノン』(岩波文庫)

問 『メノン』の冒頭において、メノンはソクラテスに対して、徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか、それとも教えられて学ぶことはできずに訓練によって身につけられるものであるか、それともまた、学んでも訓練しても得られるものではなく生まれつきの素質によるものか、さらにまた、そのいずれでもない仕方によるものなのか、と問うている。あなたは『メノン』を読んで、「学び」の本質についてどのように考えたかを述べよ。

(1,000字程度)

上記の例であれば、「徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか」や、「学ぶこととはどのようなことか」といった根本問題を、まずは理解していることが必要です。そうした前提をふまえずに、たとえばプラトンの思想などについて詳細に説明できても意味はありません。課題で言及されている人物や事柄について知っていることは有益ですが、たとえ何も知らなくとも、問われている課題について深い思考ができなければなりません。そのためには、課題図書をただ読むだけでなく、そこに出てくる用語などを調べ、理解を深めておくことが必要です。

「面接試験」：哲学科への志望理由や、入学後の学生生活への抱負などを、明確に説明することが求められます。また、哲学・美学におけるトピックに関する問題についてどう思うか、いくつか問われる時があります。その場合も、とくに固有名詞などに詳しくある必要はなく、問題の所在を把握しているかどうかと、そこから論理的に自分なりの意見形成ができているかどうかと問われます。朗らかかどうかといった、一般的な面接試験で求められる外向的な要素はあまり重視しません。

## 神道文化学部

### [神道文化学科]

#### ① 授業の受講とレポート作成 (120分)

授業 (60分) を受け、授業内容に関するレポート (60分、800字程度) を作成する。

#### ② 面接試験 (約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。



### 神道文化学部 「選考のポイント」

神道文化学部では、神道や日本文化・内外の宗教文化に対して、深い関心と前向きな学修意欲を持つ人を求めています。

授業の受講とレポート作成は、みなさんが大学での講義についていけるかを判断するものです。授業のポイントをよくおさえた、誤字や脱字のない正確な文章（800字程度）が作成できるよう、日頃から準備しておきましょう。面接試験では、自分の志望動機・入学後の目標・卒業後の展望等について、筋道を立てて伝えることが重要です。また神道の基礎知識を問う場合もあるので、神道に関わる書籍を前もって自主的に読み込んでおくことも大切です。

## 法 学 部

### [法律学科（法律専攻・政治専攻）]

#### ① 自己アピール（5～10分）

いかに自分が國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるかを口頭でアピールする。

#### ② 面接試験（約20分）

第2次出願の際に提出したレポートやエントリーシート、また自己アピールの内容等に関する質問に回答する。

※レポートを作成する際に利用したコンピュータや文献等は、すべて会場に持ち込むことができます。電源は提供できませんのでご注意ください。

- ◎ 第1次選考合格者は、第2次出願〔10月12日（火）～10月15日（金）消印有効〕の際に、入学検定料振込確認票の他に、次の（1）・（2）の書類を提出する必要があります。

#### （1）エントリーシート【様式5-法】

「志願理由について」、「あなた自身のことについて」、「社会への関心」という3つの項目につき、所定の形式に従って記入してください。

#### （2）レポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕 【様式6-法】

★ 【様式6-法】に手書きで記入してください。パソコン等を利用して作成する場合には、A4サイズ用の紙に40文字×40行でプリントアウトし、【様式6-法】を表紙として本文以外の箇所を記入し、1枚目に付けて提出してください。

★ レポートを作成するにあたり参照した文献名やウェブページのURL等は、【様式6-法】の「注（参考文献）」にリストアップしてください。

★ レポート等は、第2次選考の面接の際に必要となりますので、必ずコピーなどを手元に残し、試験当日に持参するようにしてください。

### 【レポート課題】

現行民法750条は、「夫婦は、婚姻の際に定めるところに従い、夫又は妻の氏を称する。」として夫婦同氏制度を定めています。この制度をめぐっては、現在まで、これを改めるべきとする見解と維持すべきとする見解が対立しています。

平成8年2月に法制審議会が公表した「民法の一部を改正する法律案要綱」では、選択的夫婦別氏制度の導入が提言されました。また、国連女性差別撤廃委員会は、平成15年、同21年、同28年の3度に渡り、日本政府に対し、夫婦同氏制度の是正を勧告しました。司法分野では、民法750条の合憲性が争われた裁判で、最高裁判所（平成27年12月16日他）は、この規定を合憲と判断しましたが、同時に、選択的夫婦別氏制度について、「国会で論ぜられ、判断されるべき事柄」であるとしました。他方、これらの裁判を担当した裁判官の中には、反対の意見を述べた人もいました。行政分野では、第4次男女共同参画基本計画（平成27年12月25日閣議決定）における「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し」の具体的な取組みの一つとして、選択的夫婦別氏制度の導入が挙げられていました。その後、第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）では、選択的夫婦別氏制度の導入は言及されていませんが、夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方に関し、更なる検討を進めることとされています。

そこで、以下の内容を含むレポートを、1,200～2,000字で作成してください。なお、あなたがどのような立場をとるかは、合否と関係しません。

- (1) 選択的夫婦別氏制度とは何ですか。
- (2) 選択的夫婦別氏制度を要請する声が高くなるようになった社会的・経済的な変化としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (3) 選択的夫婦別氏制度を導入すべき根拠・理由としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (4) 夫婦同氏制度を維持すべき根拠・理由としてどのようなものが挙げられていますか。紹介してください。
- (5) 以上を踏まえて、あなたは、法律婚における夫婦の氏をどのように決めるべきと考えますか。反対意見にも言及しつつ、論じてください。

### 【第2次選考】

#### ① 自己アピール（5～10分）

いかに自分が國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるかを口頭でアピールする。

#### ② 面接試験（約20分）

第1次選考の際に提出したレポートやエントリーシート、また自己アピールの内容等に関する質問に回答する。

※レポートを作成する際に利用したパソコンや文献等はすべて会場に持ち込むことができます。なお、電源や投影用のプロジェクター・スクリーン等の提供はできませんのでご注意ください。

### 法学部 「選考のポイント」

#### 【第1次選考】

##### (1) エントリーシート

志願理由や自己推薦理由といった、本来であればたくさん書きたいことを、限られたスペースに要領よくまとめて書かなければなりません。そのためには、自分は何のために大学に入って法律や政治を勉強したいのかや、自分のどんなところを評価してもらいたいのかななどを、じっくりと考えて、明確にしておく必要があります。そして、読み手に的確に伝えることのできる文章になっているかよく考えて記述しましょう。

## (2) レポート〔ALT（アカデミック・リテラシー・テスト）型レポート〕

ALT型レポートでは、①文献等を正確に読めるか、②収集した情報を一定の基準に従って整理・分類できるか、③整理・分類した情報をテーマに則して的確に分析できるか、そして④分析結果に基づいて論理的に結論を導き出し、明確に表現できるかどうか、という4点が重要になってきます。とはいえ、最初から構えて完璧主義を貫こうとすると挫折しやすいので、ある程度文献を収集した段階で、ひとまず書いてみることをお勧めします。その後、第三者の視点で欠陥を発見し、文献をもう一度読み直したり、書いた文章を修正したりするプロセスを何度か繰り返し、完成度を高めていくとよいと思います。

参考となる文献またはウェブページ（例）	データ
・二宮周平『18歳から考える家族と法』（法律文化社）（とくに28頁以下）	ISBN 978-4-589-03962-0
・阪井裕一郎『事実婚と夫婦別姓の社会学』（白澤社）	ISBN 978-4-7684-7986-5
・法務省ホームページ「選択的夫婦別氏制度（いわゆる選択的夫婦別姓制度）について」 <a href="http://www.moj.go.jp/MINJI/minji36.html">http://www.moj.go.jp/MINJI/minji36.html</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・北原零未「夫婦別姓は何故『嫌われる』のか?」社会科学研究所年報21巻243頁（2016年） <a href="https://chuou.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=8729&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21">https://chuou.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=8729&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・黒田樹里「夫婦の氏に関する一考察：子の氏の変更を中心に」國士館法學第51巻227頁（2018年） <a href="https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=14153&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21">https://kokushikan.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=14153&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・笹川あゆみ「選択的夫婦別姓制度は何故実現しないのか：『女性活躍推進』の陰で」武蔵野大学教養教育リサーチセンター紀要9号185頁（2019年） <a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=1025&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21">https://mu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=1025&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=21</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・富田哲「夫婦別姓論その後：30年の軌跡」行政社会論集 32巻4号169頁（2020年） <a href="https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005408/2-555.pdf">https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005408/2-555.pdf</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・二宮周平「生き方の多様化を支える家族法をめぐって ―選択的夫婦別姓,同性カップル,性別の変更を考える―」香川法学33巻1・2号17頁（2013年） <a href="http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/metadata/27613">http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/metadata/27613</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	
・増原啓司「夫婦別氏制批判」中京法学32巻2号25頁（1997年） <a href="https://chukyou.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&amp;page_id=13&amp;block_id=21&amp;item_id=14809&amp;item_no=1">https://chukyou.repo.nii.ac.jp/index.php?active_action=repository_view_main_item_detail&amp;page_id=13&amp;block_id=21&amp;item_id=14809&amp;item_no=1</a> （最終アクセス:2021年6月26日）	

### 【第2次選考】

#### (1) 自己アピール

記述中心の第1次選考と違って、第2次選考では口頭で説明する力が試されます。まずは、エントリーシートで記述した自己推薦理由などを口頭で説明する自己アピールです（プレゼンテーションとも言います）。5分以上10分以内と時間が限られていますので、要領よく、しかし説得力のあるアピールをすることが肝要です。もっともアピールすべきことは、「あなた自身がいかに國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるか」ですから、國學院大學の校風などを延々と述べてもあまり評価は高くならない点に注意してください。それから、プレゼンテーションの方法を工夫することも大事です。コンピュータ、AV機器、フリップなどを使ったプレゼンテーションは、うまくいけば、より効果的なアピールになりますが、必ずそうしなければならないわけではありません。まずは自分のアピールしたい内容をしっかりと決め、それとのバランスを考えて方法を選択した方がよいといえるでしょう。

#### (2) 面接試験

面接では、自己アピールや第1次選考のために書いたレポート（ALT型レポート）等についての問を受けることになります。具体的には、あなたのレポートの内容について疑問と思われる点、レポートに書かれていないけれど重要な点、関連する事項についての補足的な説明を求められることになるでしょう。それらに適切に答えるためには、提出した後も、テーマについて継続的に情報を収集し、自分のレポートを見直しておくことが大切です。そして、書いていたときには気づかなかった問題点を発見したり、提出後に新たな事態が生じて事情が違ってきている場合などには、速やかにその点を補足、訂正しておくことが重要です。

[経済学科・経営学科]

面接試験（約20分）

初めに5分程度で、レポート課題の内容の要点と自分が主張したいことについて説明してもらい、質疑応答を行う。提出した課題レポートに関する質疑応答が中心となるが、エントリーシートに書かれた内容について質問をする場合もある。

- ◎ 第1次選考合格者は、第2次出願〔10月12日（火）～10月15日（金）消印有効〕の際に、入学検定料振込確認票の他に、次の（1）・（2）の書類を提出する必要があります。

(1) エントリーシート【様式5－経済】

以下の6項目について、所定の書式にしたがって書いてください。

- (1) 高校の授業の中で印象に残ったことについて書いてください。
- (2) (1)以外に高校生活で身につけたアピールできること（資格・特技など）について書いてください。
- (3) 本学を知ったきっかけを書いてください。
- (4) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。
- (5) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。
- (6) (4)(5)を踏まえて残りの高校生活で何をすべきか考えたことを書いてください。

(2) 課題レポート【様式6－経済】

指定の課題の中から1つを選択し、本学所定用紙【様式6－経済】に3,000字程度で作成する。各学科に即した問題が設定されているので、自分の受けたい学科の中から1つ選択して、その問題に答える形でレポートを作成すること。選択した課題名を所定の位置に記入し、課題区分に○をつけること。

課題レポートの詳細は、本学ホームページ上に掲載します。以下の URL もしくは QR コードにて「総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験」のページにアクセスのうえ、「院友子弟等特別選考」で経済学部の選考方法を参照すること。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/admissions/p2/p2>



経済学部 「選考のポイント」

課題レポートは、大学に入ってから学べるすべての内容に対応してはいませんが、基本的な姿勢を問うものです。課題においては、調べる手順および適宜参考文献が指示されていますので、それに従ってレポートを作成してください。字数のたまかな提示はありますが、トータルで3,000字程度を超えないようご注意ください。

面接に際しては、初めに5分程度で作成したレポートの概要を説明していただきます。基本的にはレポートの内容について質問しますが、大学に入ってから学びとの関連で、エントリーシートに関する質問をする場合もあります。



[初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科]

① 小論文試験（説明を含めて90分、1,000字程度）

試験に関する説明（10分程度）を受けた後、小論文（1,000字程度）を作成する。

② 面接試験（約15分）

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

③ 実技試験（5分以内）【子ども支援学科のみ】※撮影した動画を事前に提出

子ども向けのパフォーマンス（手遊び・うた・お話・遊戯など）を、その意図について簡単に説明したうえで実演すること。~~用具が必要な場合は各自持参すること。~~なお、動画の投稿方法は第一次選考合格者に別途通知します。

（令和3年9月30日変更）

- ◎ 第1次選考合格者は、第2次出願〔10月12日（火）～10月15日（金）消印有効〕の際に、入学検定料振込確認票の他に、次の(1)・(2)の書類を提出する必要があります。

(1) エントリーシート【様式5－人間開発】

(2) 活動報告書および添付資料【様式7・8】

資格取得や検定試験合格、あるいはスポーツなどで顕著な成績を有している場合には、添付資料目録に記載し、必ず証明書等のコピーを添付すること。

人間開発学部 「選考のポイント」

人間開発学部としては、「人間の能力開花、開拓」に関心があり、「幼稚園教諭・保育士、小学校教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、あるいは健康やスポーツ分野のリーダーになりたい」という強い意欲を持つ人に入学してほしいと考えています。「人間開発」という言葉には、さまざまなストレスやプレッシャーなどにより閉じられたままになっている能力や才能を「弾ける」「拓く」「拡がる」ように引き出し、「開花させる」という意味が込められています。それゆえ生徒や指導の対象となる人の「頑張ることを応援する教育」に向けて積極的に勉強する人の意欲を評価したいと思います。

第2次選考においては、小論文試験と面接試験を行います。

小論文試験では、短時間で説明を理解する必要があります。さらに作成に当たっては、「論理的な道筋を立てた内容とすること」「読む人にわかりやすく伝わる文章にすること」に留意してください。

面接試験では、特に本学部・学科への志向性を問います。学生生活、卒業後の進路について、今後の展望を持っていることが望ましいでしょう。子ども支援学科の実技試験では、子どもに向けて伝えようとする工夫と意欲が感じられるものであることが必要です。



## 6. 第1次出願書類

出願期間

令和3年9月1日(水)～9月8日(水)

消印有効

第1次出願に必要な書類を全てそろえ、本学所定の出願用封筒ラベルを使用し、速達・簡易書留で入学課宛に送付してください。一度提出した書類は、返還しませんので、ご注意ください。

【注意1】 様式①～⑥を順番に並べたうえで提出してください。なお、記入の際はボールペンを使用(鉛筆書き不可)してください。

【注意2】 入学志願票(及び写真票)・様式1～3は志願者本人が、様式4は「本学卒業(修了)者」または「関係法人の現職専任教職員等」が作成してください。

<p>① 入学志願票 【本学所定用紙】</p>	<p>「入学志願票記入例」(P.24～25)を参考に記入してください。なお、<u>入学検定料を振込む必要はありません</u>。志願票・写真票は切り離さずに提出してください(振込依頼書・振込金兼手数料受取書を提出する必要はありません)。</p>	
<p>② 各種証明書</p> <p>※①・②両方を必ず提出してください。</p> <p>※出願3ヶ月以内に発行された書類を提出してください。</p>	<p>① 関係を証明する書類(戸籍抄本等)</p> <p>公的機関から発行された、志願者と本学の卒業(修了)者または、関係法人の現職専任教職員等との関係(二親等以内)を確認することのできる書類・証明書を提出してください。 ※卒業(修了)時と姓が異なる場合には、改姓の過程が記載された書類・証明書を提出してください。</p>	
	<p>② 出願資格を証明する書類(調査書等)</p> <p>高等学校(特別支援学校の高等部を含む)又は中等教育学校を卒業した者、及び令和4年3月卒業見込みの者</p>	<p>出身(在籍)学校長が発行した「調査書」(学校所定用紙、開封無効) 既卒生の場合、卒業後に発行されたもので可(卒業見込で発行されたものは不可) 卒業後5年以上経過などの理由により、調査書が発行できない場合は「卒業証明書」を提出すること。</p>
	<p>高等学校卒業程度認定試験もしくは大学入学資格検定の合格者・合格見込みの者</p>	<p>「合格証明書」 (合格見込者は「合格見込成績証明書」)</p>
	<p>外国における12年の課程を修了した者又は修了見込みの者</p>	<p>「修了(見込)証明書」と「成績証明書」 ※日本と外国両方の高等学校に在籍した場合は、日本の高等学校在学中の「調査書」も合わせて提出してください。</p>
	<p>その他、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた場合</p>	<p>関係する証明書等を提出してください。 なお、必要な証明書については本学入学課(03-5466-0141)へお問い合わせください。</p>
<p>③ 志望理由書 【様式1】</p>	<p>大学での勉強・研究に対する目的意識と意欲を1,000字程度で記入してください。</p>	
<p>④ 課題図書に基づくレポート 【様式2】</p>	<p>課題図書(P.13参照)を読み、レポートを作成してください。</p>	

<p>⑤ 活動レポート・ 添付資料目録 および添付資料 【様式3】</p>	<p><b>【文・神道文化・経済学部のみ】</b> 学内外問わず、過去3年間程度で主体的に取り組んだ活動を1つ選び、800字以内で記入してください（活動が団体によるものである場合は、本人の役割を明確にしてください）。</p> <p><b>添付資料目録について【神道文化・経済学部のみ】</b> 「活動レポート」に関連する資料を添付する場合は、資料に番号・資料名をつけ、目録を作成してください。添付資料がない場合も、「添付資料の有無」欄の無に丸を付けてください。添付資料は5点以内とし、可能な限りA4サイズに統一してください（コピーの難しいものはA4サイズ用の紙に貼付してください）。ホチキス留めのできない資料を添付する場合には、資料番号を明記の上同封してください。なお、提出された添付資料は返却できません。</p> <p>《添付資料例》 創作や研究発表を掲載した雑誌・新聞の切り抜き、写真、活動の成果や記録（A4）など。なお、必ずしも正式なものである必要はありません。</p>
<p>⑥ 出願資格確認書 【様式4】</p>	<p>出願資格を確認するための書類です。該当項目を全て記入のうえ、提出してください。</p> <p>※必ず「本学卒業（修了）者」または「関係法人の現職専任教職員等」が作成してください。</p> <p><b>【1】「志願者」欄</b> 二親等以内の親族（志願者）の志願先学部・学科および氏名を記入してください。</p> <p><b>【2】「院友」欄</b> 氏名・連絡先等の該当箇所を記入してください。</p> <p>※卒業（修了）者の場合は、最終学歴を記入してください。</p> <p>※関係法人の専任教職員は、必ず「在職証明書」（各校所定用紙）を提出してください。</p> <p>※やむを得ない事由（物故等）で、代筆により提出する場合は、必要事項と合わせて「代筆理由」を明記してください。</p> <p>※卒期がわからない場合は、空欄でもかまいません。</p>

**7. 入学志願票記入例** ※写真票もこれにならって記入してください。

記入例は、経済学科を選択した場合のものです。他の学科を選択した場合もこれにならい、ボールペンを使用して各票の太枠内を漏れなく記入してください。網かけされている欄は未記入のままです。なお、提出後の変更は一切認められませんので、ご注意ください。

★第1次出願時には、入学検定料を振込む必要はありません。

(振込依頼書・振込金兼手数料受取書は提出する必要がありませんので、切り取ってください)

★写真票には写真(縦4cm×横3cm)を必ず貼付してください。

★記入を間違えた場合は修正液(ホワイト)を使用しても構いません。

★一度提出した書類等は返還しません。

**志願票**

**國學院大學(総合型選抜・学校推薦型選抜) 入学志願票**

**入試制度**  
出願する試験制度の番号に○を付け、必要事項を記入してください。

1 公募(AO) 経済学部以外	2 公募制(AO) 経済学部 K-ENT方式	3 スポーツ	4 指定校	5 全商協会	6 社会人	7 神道・宗教	8 神職養成	9 神道学 専攻科	10 学士	11 一般編入
研究発表型 レポート+面接型 高大接続型		12 院反子弟	13 セカンド キャリア	14 別科I類	15 別科II類	出願方法 1: 神道 2: 宗教 (A)(B)	16 外国人 留学生	17 系列・協定校 (推薦)	18 系列校 (選抜推薦)	19 系列編入

↓記入例に従って該当欄に記入してください(選択項目には該当する番号に○を付けてください)。

**志願データ**

受験番号	M I 3 A		※
入試コード	M I 3 A		※
学部	経済	入試制度「1」・「7」(I期)・「12」の 神道文化学科志願者のみ 番号に○を付けてください。	【公募(AO) 社会人出願者のみ】 ・第1次選考免除 (中国文学科・法律学科) 1 希望する ・活動レポート免除 (史学科) 2 希望しない
学科	経済		
専攻 (専攻科・別科)			
フリガナ	ワカキ	ショウ	性別 1 男 2 女
漢字	若木	翔	生年月日 20031104
【留学生用】 ローマ字			電話 自宅 045-XXXX-XXXX 携帯 080-XXXX-XXXX
志願者住所	神奈川県横浜市青葉区新石川3-22-1 若木ヒルス 101		
〒	225-0003	メールアドレス	kokugakuin@xxx.xx
出身高等学校等	国學院	高等学校等コード	13550A
課程	1	学科	1
卒業年(西暦)	2022	月	03
出身大学(短大)・学部・学科			卒業年(西暦) 月
入学検定料(振込金額)	¥		

- ボールペンを使用して記入してください。間違えた場合は修正液を使用しても構いません。但し、入学検定料(振込金額)を訂正する場合は、二重線で消し、その上に銀行で訂正印を押してもらい、欄外に正しい金額を記入してください。
- 濁点なども1文字として楷書で記入してください。
- 振込金額は、入試制度によって異なりますので、必ず要項をご確認ください。
- ATMからの振り込みはできません。必ず銀行等金融機関の窓口で手続を行ってください。
- 取扱店の取納印が無いものは無効です。

**個人情報取り扱い確認欄**

個人情報の取り扱いに関する「振込金兼手数料受取書(本人保存)」の記載を読み、同意しない場合のみ、✓を記入してください。

同意  しない



2022

(1) 記入上の注意

- ①出願する入試制度に○をつけてください。
- ②各種コード一覧を参照し、入試コード・学部・学科を記入してください。専攻欄は法学部のみ、コース欄は神道文  
化学部のみ記入してください。
- ③氏名は常用漢字を使用し、楷書で記入してください。
- ④濁点・半濁点も1文字として記入してください。
- ⑤生年月日・卒業年月は必ず西暦で記入し、月日が1桁の場合は、その数字の前に「0」を入れ、2桁で記入してくだ  
さい。
- ⑥住所は受験番号通知書等の送付先となるので、アパート・マンション名まで正確に記入してください(丁目・番地・  
号は「-」で記入してください)。
- ⑦電話番号(日中連絡のとれるもの)は、市外局番・局番・加入番号それぞれの間を「-」で区切って記入してくだ  
さい。
- ⑧メールアドレスは正確に記入してください。また、文字の判別がしやすいように、適宜フリガナ等で補足してくださ  
い(例:アルファベットのO<オー>と数字の0<ゼロ>など)。

(2) 各種コード一覧

学科	学科	コース・専攻	入試コード
文	日本文	-	M11A
	中国文	-	M11E
	外国語文化	-	M11F
	史	-	M11B
	哲	-	M11D
神道文化	神道文化	フレックスA(夜間主)	M14A
		フレックスB(昼間主)	
法	法律	法律	M12A
		政治	M12C
経済	経済	-	M13A
	経営	-	M13C
人間開発	初等教育	-	M15A
	健康体育	-	M15B
	子ども支援	-	M15C

高等学校等コード

高等学校等の進路指導部へお問い合わせください。  
※大学入試センターのコードと同様です。

課程コード

課程	全日制	定時制	通信制	その他
コード	1	2	3	9

学科コード

学科	普通	商業	工業	農業	英語	総合	その他
コード	1	2	3	4	5	6	9

## 8. 学費等納付金

### (1) 学費等納付金について

令和3年度参考。なお金額については変更となる場合があります。

(単位：円)

費目		納期	入学時	入学後(後期分)	初年度合計	
学費	入学金		240,000		240,000	
	授業料(文・経・法・神)		380,000	380,000	760,000	
	(人間開発)		400,000	400,000	800,000	
	施設設備費(文・経・法・神)		105,000	105,000	210,000	
	(人間開発)		125,000	125,000	250,000	
維持運営費		10,000		10,000		
小計(文・経・法・神)		735,000	485,000	1,220,000		
(人間開発)		775,000	525,000	1,300,000		
諸費	若木育成会費		29,000		29,000	
	若木学友会入会金		1,000		1,000	
	若木学友会費		5,300		5,300	
	院友会(同窓会)入会金		10,000		10,000	
	文学部・神道文化学部：國學院雑誌代		2,000		2,000	
	経済学部：経済学会費		2,000		2,000	
	法学部：國學院法学代		3,000		3,000	
	人間開発学部：人間開発学会費		3,000		3,000	
	小計	文学部		47,300		47,300
		経済学部		47,300		47,300
法学部			48,300		48,300	
神道文化学部			47,300		47,300	
人間開発学部			48,300		48,300	
合計	文学部 経済学部 神道文化学部		782,300	485,000	1,267,300	
	法学部		783,300	485,000	1,268,300	
	人間開発学部		823,300	525,000	1,348,300	

- 備考 1. 教員免許等各種資格の取得を希望する場合は、上記以外に別途費用が必要となります。  
 2. 上表のうち、國學院雑誌代(文学部・神道文化学部)については消費税分を含んだ金額となっています。  
 3. 文学部中国文学科入学者は、中国学会費2,000円が諸費に加算されます。  
 4. 人間開発学部は、野外実習費として上記以外に別途費用が必要となります。  
 5. 後期分以降の学費の納付については、口座振替となります。詳細については入学後にご案内します。

### (2) フレックスコースの学費等納付金について(神道文化学部)

フレックス開講制のいずれのコースに入学しても学費等納付金は同額です。ただし、フレックスA(夜間主)コースの在籍生を対象に、月～金曜日の5～7時限及び土曜日1～7時限の科目のみで授業を履修し、本学の定める出願資格を満たした学生に、400,000円を給付する制度「フレックス特別給付奨学金」を設けています。有資格者は入学後所定の期間に出願手続をしてください。詳細は学生生活課(03-5466-0145)にお問い合わせください。

※この奨学金を希望する場合には、出願時に必ず「フレックスA(夜間主)コース」を選択してください。

#### 【國學院大學教育充実資金(維持費)についてのお願い】

本学教学内容の維持・充実をはかるため、新入生の保証人(ご父母)各位に國學院大學教育充実資金(1口20万円)のご寄付をお願いしております。入学後の4月にご案内をいたしますので、ぜひ1口以上のご協力をお願い申し上げます。

※本学では入学前(3月まで)の募金活動は行っていません。



## 9. 入学前学習講座

國學院大學では、総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験による入学者を対象に、合格発表から入学までの期間で「入学前学習講座」を実施しております。

この講座では、早期に実施される総合型選抜・学校推薦型選抜入学試験から入学までの期間において、学修機会を設けることで、入学後の学修がスムーズなものとなるよう実施しております。受講される場合は受講料を別途ご納入いただくこととはなりますが、本講座の趣旨をご理解いただき、積極的な受講をいただくようお願い申し上げます。

なお、申し込み方法等の詳細については、合格発表時にご案内いたします。

1. 実施期間：令和3年12月下旬～令和4年3月
2. 内容：小論文・英語・各学科指定課題（予定）

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で  
記入してください(鉛筆書き不可)。

志望理由書		入試 コード	M	1	
学部		フリガナ			
学科・専攻		氏名			

200▲

400▲



※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で  
記入してください(鉛筆書き不可)。

<b>課題図書に基づくレポート</b>				入試 コード	M	1		
学部		フリガナ						
学科・専攻		氏名						

(1)


200▲

400▲





※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で  
記入してください(鉛筆書き不可)。

(2)

200▲																				
400▲																				

※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で  
記入してください(鉛筆書き不可)。


▲600

▲800

▲1000

<h1>活動レポート</h1>		入試 コード	M	1		
学 部		フリガナ				
学 科 (専 攻)		氏 名				

〔記入にあたっての注意事項〕

※学校内外問わず、過去3年間程度で主体的に取り組んだ活動の一つを選び、記入してください。  
 ※資格・検定等の証明書類などの添付資料は不要とします（別途指示のある場合を除く）。  
 ※字数・内容については、出願先（学部・学科・専攻）の該当ページで必ず確認してください。

主体的に取り組んだ活動について

例：課題研究、探究活動、部活動、学校行事、生徒会・委員会、ボランティア活動、各種コンクール、習い事、留学・海外経験、資格・検定取得に向けた活動、その他学びの経験、等

タイトル ※20字程度	
----------------	--

100▲																			
200▲																			
300▲																			
400▲																			



※ペンまたはボールペンを使用し、自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

出願資格確認書				入試 コード	M	1																																																										
志願者	学部		フリガナ																																																													
	学科・専攻		氏名																																																													
院友会会員・専任教職員																																																																
フリガナ			旧姓		性別																																																											
氏名					男・女																																																											
志願者との関係 (続柄)					生年月日																																																											
			(西暦)		年	月	日																																																									
連絡先	現住所	〒	—	電話	自宅	—	—																																																									
		メールアドレス:	@		携帯	—	—																																																									
<p>■ 卒業（修了）者記入欄 ■</p> <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>区分 ○を付けてください。</td> <td>A. 卒業生</td> <td>B. 修了者</td> <td>C. その他 ( )</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>卒業学部・学科 修了した専攻等 ○を付けてください。</td> <td colspan="3">           学部            学科         </td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>卒業（修了）年・期</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>卒業・修了 (第 期)</td> </tr> </table> <p>■ 専任教職員記入欄 ■ ※関係法人の専任教職員は、必ず「在職証明書」(各校所定用紙)を提出してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>学校名</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>所属</td> <td colspan="7"></td> </tr> </table> <p><input type="checkbox"/> 代筆理由 <input type="checkbox"/></p> <table border="1"> <tr> <td>理由</td> <td colspan="7"></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">代筆者</td> <td colspan="4"></td> <td>院友との続柄</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td>志願者との続柄</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>									①	区分 ○を付けてください。	A. 卒業生	B. 修了者	C. その他 ( )	②	卒業学部・学科 修了した専攻等 ○を付けてください。	学部 学科			③	卒業（修了）年・期	年	月	卒業・修了 (第 期)	①	学校名								②	所属								理由								代筆者					院友との続柄							志願者との続柄		
①	区分 ○を付けてください。	A. 卒業生	B. 修了者	C. その他 ( )																																																												
②	卒業学部・学科 修了した専攻等 ○を付けてください。	学部 学科																																																														
③	卒業（修了）年・期	年	月	卒業・修了 (第 期)																																																												
①	学校名																																																															
②	所属																																																															
理由																																																																
代筆者					院友との続柄																																																											
					志願者との続柄																																																											
<p>ご同意いただける場合は<input checked="" type="checkbox"/>をお願いします。</p> <p>本書記載の連絡先・氏名が最新の情報のため、本学が所持しているデータと相違がある場合、更新することを許可します。 <input type="checkbox"/></p>					<p>※確認欄</p> <table border="1"> <tr> <td>校友課</td> <td>人事課</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				校友課	人事課																																																						
校友課	人事課																																																															



※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				入試 コード	M	1	2
				法学部	法律専攻		フリガナ
	政治専攻		氏名				

↑ 志願する専攻に○を付けてください。

志願理由について	<p>あなたが國學院大學法学部法律専攻または政治専攻を志願する理由を書いてください。</p> <p>*その際には、以下の3点を含ませてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたが法学や政治学を学ぶ目的</li> <li>・國學院大學法学部法律専攻または政治専攻があなたに適していると思った理由</li> <li>・法律専攻または政治専攻の授業にどのように取り組んでいこうと考えているか</li> </ul>
----------	---

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなた自身のことについて	<p>あなた自身について、積極的に評価してほしいことを書いてください。</p> <p>*これまで取り組んできた活動などの「具体的事実」、あなたや他人が捉えている「あなたの性格」などが一つのストーリーとして結びつけられている記述に挑戦してください。</p>
社会への関心	<p>あなたが現在（ALTレポートのテーマ以外に）最も関心を持っている社会的出来事を一点挙げ、それに関してどのようなことを調べ、現在どのような考えを持っているか、書いてください。</p>

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

エントリーシート				入試 コード	M	1	3
経済学部	経済学科		フリガナ				
	経営学科		氏名				

↑志願する学科に○を付けてください。

(1) 高校の授業の中で印象に残ったことについて書いてください。

(2) (1)以外に高校生活で身につけたアピールできること(資格・特技など)について書いてください。

(3) 本学を知ったきっかけを書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

(4) 経済学部および選んだ学科を志望した理由を書いてください。

(5) 大学生活における目標と卒業後の進路について書いてください。

(6) (4)(5)を踏まえて残りの高校生活で何をすべきか考えたことを書いてください。

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

<b>エントリーシート</b>				入試 コード	M	1	5
人間開発学部	初等教育学科		フリガナ				
	健康体育学科		氏 名				
	子ども支援学科						

↑志願する学科に○を付けてください。

あ な た の こ と	本学部・学科を志望した理由
	自分について最も評価してほしいところ（他人に誇れる性格、特技、経験など）
	最近気になっている社会問題とその理由



※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

あなたのこと	継続的に取り組んできたと自信をもって言える活動とその期間
あなたが考えること	<p>「個性的」とはどういうことか</p> <p>社会に「人間開発」が必要であると思う理由</p>

※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

<b>レポ ー ト</b>		入 試 コード	M	1	2
法学部	法律専攻	フリガナ			
	政治専攻	氏名			
志願する専攻に○を付けてください。↑					

(注意) 字数はP.18で必ず確認してください。

200▲

400▲







※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

課 題 レ ポ ー ト			入 試 コ ー ド	M	1	3
学 部		フリガナ				
学 科		氏 名				
表 題 <small>(題目・書名など)</small>	..... .....					

課題区分 <small>(選択した課題を○で囲んでください)</small>	A          ·          B
---	-------------------------

(注意) 各課題に対して、示されているアウトラインに従って総計3,000字程度で書いてください。


200▲

400▲





※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

1200▲

1400▲

1600▲



※自筆で記入してください(鉛筆書き不可)。

2400▲																				
2600▲																				
2800▲																				



活動報告書			入試 コード	M	1	5
学 部	人間開発学部	フリガナ				
学 科		氏 名				

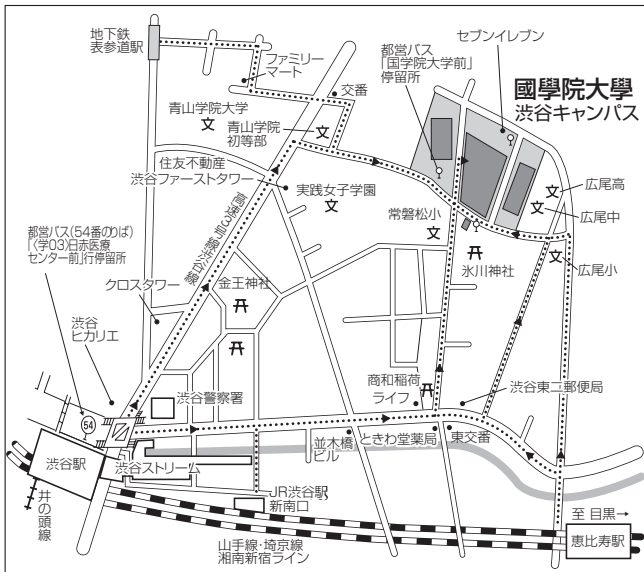
活動内容を具体的に記入してください（箇条書き可）。

添付資料目録			入試 コード	M	1	5
学 部	人間開発学部	フリガナ 氏 名	添付資料の 有無		有 ・ 無	
学 科						

添付資料 番号	資 料 名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	

\*添付資料が10点を超える場合はこの【様式8】をコピーして使用してください（P.21を参照）。

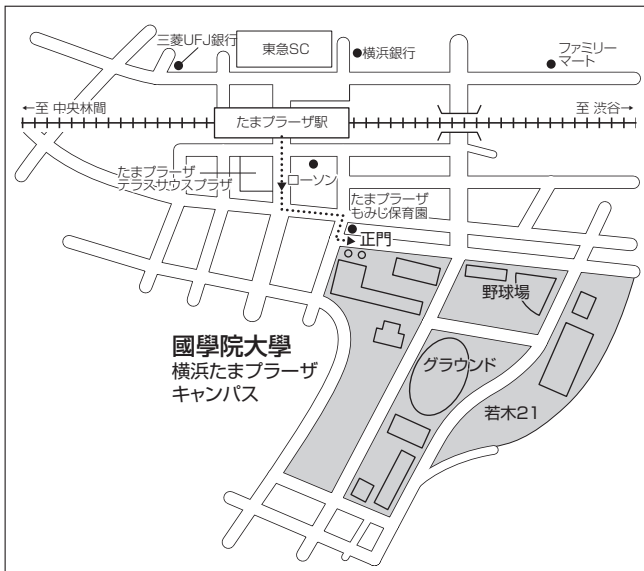
**渋谷キャンパス** 〈文学部・神道文化学部・法学部・経済学部・専攻科・別科のメインキャンパス〉



＜所在地＞〒150-8440  
東京都渋谷区東四丁目10-28

＜交通機関＞渋谷駅東口方面出口より徒歩約13分、  
または、  
渋谷駅東口バスターミナル(54番のりば)  
より  
都営バス〈学03系統〉「日赤医療センター前」行き(運賃 現金180円・IC175円)  
「国学院大学前」下車

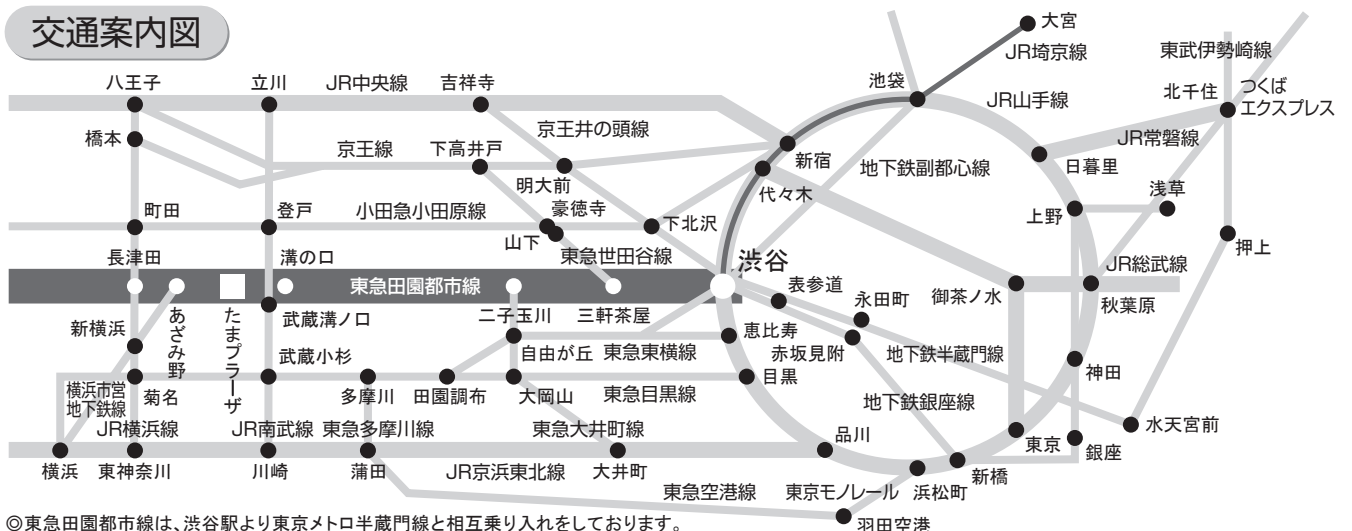
**横浜たまプラーザキャンパス** 〈人間開発学部のメインキャンパス〉



＜所在地＞〒225-0003  
神奈川県横浜市青葉区新石川三丁目22-1

＜交通機関＞渋谷駅より東急田園都市線(長津田・中央林間方面行き)にて約25分  
(東京メトロ半蔵門線相互乗り入れ)  
たまプラーザ駅下車南口より徒歩約5分

**交通案内図**



◎東急田園都市線は、渋谷駅より東京メトロ半蔵門線と相互乗り入れをしております。

※本ページに記載されている情報は発行時のものです。変更される場合がありますので、ご自身で必ずご確認ください。



